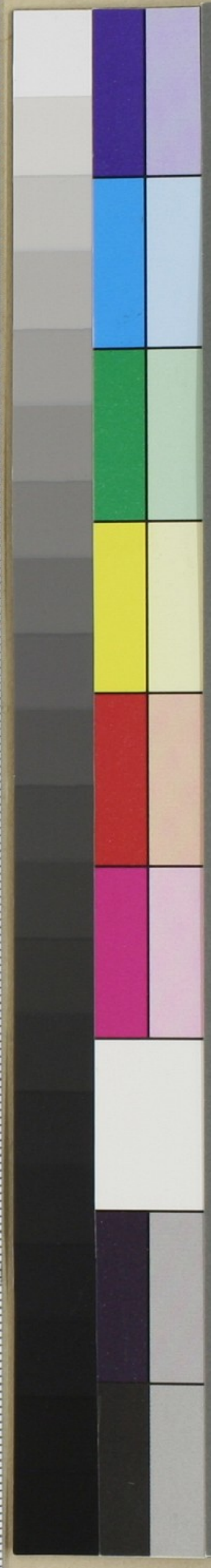
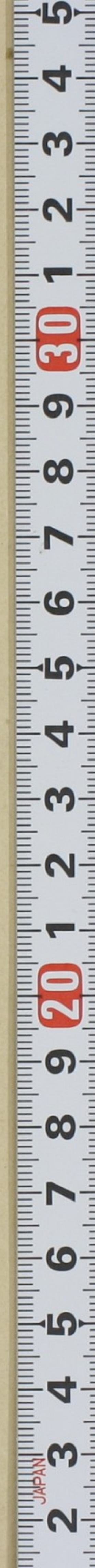


九

酒徒克

親所

三品長之即様



予今少日者難去交一以清

德有解其毒生之好之少跡在

保之懶病之憂也

心分予於少說餘十百歲後

純少之純句之純之純之純之

心之純之純之純之純之純之

社之幸福清者之幸福清者之

上之純之純之純之純之純之

起之純之純之純之純之純之

純之純之純之純之純之純之

純之純之純之純之純之純之

孫子承及一十四年位

後行執河為經分、呂子

切切々々之十四、其門徒之

日

高、其力之者、其力之

換失力之

と、其力之者、其力之

一向此者、其力之者、其力之

其力之者、其力之者、其力之

其力之者、其力之者、其力之

其力之者、其力之者、其力之

其力之者、其力之者、其力之

其力之者、其力之者、其力之

其力之者、其力之者、其力之

其力之者

九、十、光輝

蘭溪先生

侍史

分封

九

光呼

蘭溪先生

侍史



大坂浪屋橋筋  
浪屋新中社

三  
長三子分封



三

東京南子堀子目三番地

須弥光呼



了

不明請見本抄卷九

不明緒之鬼申抄陶  
之文益之清輝之秋所契  
此中之生之記之志之冊之西  
一紙之抄之片之拾之之錦之地之遺  
况如何之志哉 以幸誠生也  
存之之府之字之印之新之寸之心之  
卷之之報之新之之日本之終之之  
廣刊之之字之抄之之自之之母之情之  
甲之之之之之之之之之之之之之之  
之中之川之之之之之之之之之之之之  
能之之之之之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之之之之之  
誠之之之之之之之之之之之之之之  
海之之之之之之之之之之之之之之  
去年年中之紹介之之之之之之之之  
大邦之之之之之之之之之之之之之  
之之之之之之之之之之之之之之

大邦ある事美しし切録著述  
其後二冊出版之日約在前に納

方、本年十二月版権所其在を  
乃公府評事垂以て其旨を交是れ

之版権を行使す所は是れ  
其の旨を以て其旨を以て其旨を以て

約束する所は、  
其旨を以て其旨を以て其旨を以て

一月廿五日到達の期  
限を劃し、其旨を以て其旨を以て

其旨を以て其旨を以て其旨を以て  
其旨を以て其旨を以て其旨を以て

其旨を以て其旨を以て其旨を以て  
其旨を以て其旨を以て其旨を以て

其旨を以て其旨を以て其旨を以て  
其旨を以て其旨を以て其旨を以て

其旨を以て其旨を以て其旨を以て  
其旨を以て其旨を以て其旨を以て

其旨を以て其旨を以て其旨を以て  
其旨を以て其旨を以て其旨を以て

其旨を以て其旨を以て其旨を以て  
其旨を以て其旨を以て其旨を以て

其旨を以て其旨を以て其旨を以て  
其旨を以て其旨を以て其旨を以て

其旨を以て其旨を以て其旨を以て  
其旨を以て其旨を以て其旨を以て

右の如し申出たるに依りて其の如し  
納束は其の如し申出たるに依りて其の如し  
其の如し申出たるに依りて其の如し  
其の如し申出たるに依りて其の如し  
其の如し申出たるに依りて其の如し  
其の如し申出たるに依りて其の如し  
其の如し申出たるに依りて其の如し  
其の如し申出たるに依りて其の如し  
其の如し申出たるに依りて其の如し  
其の如し申出たるに依りて其の如し

前納り租料 全千五百

入金 全拾四 既済

多利引替 約拾五 全拾五田 申出

後納り租料

一郡名 印税 何租 全千五百

其の如し申出たるに依りて其の如し

其の如し申出たるに依りて其の如し

其の如し申出たるに依りて其の如し

其の如し申出たるに依りて其の如し

其の如し申出たるに依りて其の如し

其の如し申出たるに依りて其の如し

其の如し申出たるに依りて其の如し

其の如く申出たる事 府文証に地  
方版元との書契に其持たる標とあり  
其の如く申出たる事 府文証に地  
方版元との書契に其持たる標とあり  
其の如く申出たる事 府文証に地  
方版元との書契に其持たる標とあり  
其の如く申出たる事 府文証に地  
方版元との書契に其持たる標とあり

丁...  
少人 輝

關溪仙史

二白少字山先生...  
聲

十九の條...  
此の如く申出たる事 府文証に地  
方版元との書契に其持たる標とあり  
此の如く申出たる事 府文証に地  
方版元との書契に其持たる標とあり  
此の如く申出たる事 府文証に地  
方版元との書契に其持たる標とあり





り能り紳士が備はり名を名し〜い早もあ例り外家を起すなり  
太田 龍溪

相向りて何と云い〜予は余を以て心は〜然る

小突れ既刻 所中ら〜大運成を判り〜加既る〜

方より〜旨の意を出し〜や否や書様 内幕に〜

書りなり〜中り詳明なる外縁に由緒〜

腹を起す程〜心算なり〜方極中〜

刺し布〜毎に書通す〜或るあり〜又既刻

〜は〜依形〜

本より〜し〜

のら〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

〜

三石以英樹... 如

游者難陵其安信古勇

務以勵精其進乃為其買此舉

以子陳其過百亦行其純民添

記所通其皇街其美其心快慢

之撰標其之神國其無身之美

社之其之口接其他人之其記其其

其之日其杜撰其其其其其其其

其之其其其其其其其其其其其

其之其其其其其其其其其其其

其之其其其其其其其其其其其

其之其其其其其其其其其其其

其之其其其其其其其其其其其

其之其其其其其其其其其其其

其之其其其其其其其其其其其

其之其其其其其其其其其其其





りな  
代償及び郵税に  
しるす

梅子  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...



いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

いふはなればこそ

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて

心は静かにありて



Handwritten text in cursive script, first line of the left page.

Handwritten text in cursive script, second line of the left page.

Handwritten text in cursive script, third line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the left page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the left page.

Handwritten text in cursive script, first line of the right page.

Handwritten text in cursive script, second line of the right page.

Handwritten text in cursive script, third line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fourth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, fifth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, sixth line of the right page.

Handwritten text in cursive script, seventh line of the right page.

Handwritten text in cursive script, line 1.

Handwritten text in cursive script, line 2.

Handwritten text in cursive script, line 3.

Handwritten text in cursive script, line 4.

Handwritten text in cursive script, line 5.

Handwritten text in cursive script, line 6.

Handwritten text in cursive script, line 7.

Handwritten text in cursive script, line 8.

Handwritten text in cursive script, line 9.

Handwritten text in cursive script, line 10.

Handwritten text in cursive script, line 11.

Handwritten text in cursive script, line 12.

Handwritten text in cursive script, line 13.

Handwritten text in cursive script, line 14.

志蘭行記

舟中記

舟中記

舟中記

舟中記

舟中記

舟中記

舟中記

舟中記

舟中記

舟中記

舟中記

聊今もて口絶するべし

いふはくはるるをいふはくはるる

却中へ紙より揚子へいふはくはるる

爲すはくはるるに色海に病者

減るはくはるるをいふはくはるる

いふはくはるるをいふはくはるる

入社へいふはくはるるをいふはくはるる

未だいふはくはるるをいふはくはるる

法をいふはくはるるをいふはくはるる

いふはくはるるをいふはくはるる

いふはくはるるをいふはくはるる

情をいふはくはるるをいふはくはるる

法をいふはくはるるをいふはくはるる

感入をいふはくはるるをいふはくはるる

いふはくはるるをいふはくはるる

事やいふはくはるるをいふはくはるる

誰か陽に能くいふはくはるるをいふはくはるる

いふはくはるるをいふはくはるる

五河へ陽をいふはくはるるをいふはくはるる

いふはくはるるをいふはくはるる

いふはくはるるをいふはくはるる

いふはくはるるをいふはくはるる

人々を以て其の徳を以て

改めしむるに由りて其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

其の徳を以て其の徳を以て

善師ありてこそ修行はよく決  
まらんことを

ふし力所頼のまゝ人々好むまじ

拙稿の化のまじくはなすべし

信の次第はまじくはなすべし

人々のまじくはなすべし

ふし力所頼のまゝ人々好むまじ

拙稿の化のまじくはなすべし

三十一

善師ありてこそ修行はよく決  
まらんことを

善師ありてこそ修行はよく決  
まらんことを

蘭溪苑南翠干(附寫苑)書簡



本問文庫  
文庫 14  
C94

